未刊謡曲集

続一

田中　允　編

古典文庫

田中金

朱刊譯典集

江苏工学院图书馆藏书章

續一

古典文庫

古典文庫第四九一冊

昭和六十二年九月二十日印刷発行　　非売品

未刊謡曲集　続一

編者　田中允

発行者　吉田幸一

印刷者　共立印刷株式会社

発行所　114　東京都北区西ケ原三ノ三四ノ一二　古典文庫
電話（九一〇）二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

© KOTEN BUNKO, 1987. Printed in Japan

目次

凡　例……五
各曲解題……九
本　文
明　石……（九）……九三
明石西行……（一三）……九九
赤目滝……（一四）……一〇五
浅草詣　附奥州下……（一六）……一一七
旭　桜……（一七）……一二七
朝日新聞……（一八）……一二九
朝日寺……（二〇）……一三五
朝日天神……（二四）……一四九

足尾銅山……（二四）……一五八
阿濃猩々（洞猩々）……（三〇）……一七七
雨乞龍神……（三三）……一八四
綾　鼓　喜多流改作……（三三）……一九二
綾の鼓　堂本改作……（三五）……一九八
鮎……（三六）……二〇五
安楽川女院……（三八）……二一四
荒木又右衛門……（三九）……二二二
有　王……（四〇）……二二八
碇　引……（四一）……二三七
いくさ神……（四三）……二四三
石原薬くわん……（四四）……二五二
和泉の宮……（四五）……二五九
磯　崎……（四六）……二七〇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

板敷山 高木半改訂本……（四八）……二八〇
板敷山 観世清廉訂正本……（四八）……二八九
一来法師……（五〇）……二九三
犬房……（五三）……二九七
伊予乃湯（道後乃湯・道後）……（五四）……三〇三
伊良虞……（五五）……三一〇
入野（土佐乃海）……（五六）……三一九
岩手山……（五八）……三三八
石見銀（銀山）……（六一）……三四六
上杉（難波田）……（六三）……三五三
牛鬼……（六四）……三六一
牛滝……（六六）……三七三
撃ちてし止まん……（六七）……三八二
鵜戸山岩屋詣……（七〇）……三八七

卯(の)嶋……(七〇)……三九三
卯花重……(七一)……四〇〇
瀛　姐……(七七)……四〇九
海の幸……(七八)……四一八
うん泉……(七九)……四三一
〔追加〕
金　野(あきのの)……(八一)……四四〇
イエズスの洗礼(イエズスのバプティズマ)……(八三)(九〇)四四六
岩　神異本……(八六)……四五四
槎の潟(うききのかた)……(八八)……四五九
後　記……四六五

凡　例

一、本文庫の『番外謡曲角淵本』正続二冊計五十二番、『未刊謡曲集』三十一冊計一五二六番、総計一五七八番、『謡曲叢書』三冊、『新謡曲百番』、国民文庫本『謡曲全集』下巻、日本名著全集本『謡曲三百五十番集』『謡曲評釈』九冊（謡曲叢書本以下は重複曲多く、重複しない総数は約六百番）などの、図書館などで比較的閲覧し易い、まとまった諸本に見られる曲を除き、残余を五十音順に配列して続編とし、この続第一冊では「明石」から「うん泉」までの四十一番と、組版後に入手した追加曲四番の計四十五番を翻刻した。

二、翻刻はすべて原本通りを原則としたが、私意を加えた所はすべて（）でくくった。また各曲解題の所でも、原典を引用した所の中の私註は同様に（）でくくった。

三、原典には段落のない場合が多いが、すべて編者の見識で改行した。

四、節付は印刷の都合上省略せざるを得なかったが、稀に節付のない寫本もあ

り、また活字翻刻本しか見当らない曲は勿論節付省略本であるから、これらは原典に既に節付がなかった曲である。これらの点は解題で触れた。

五、「次第」「一セイ」「舞」などの演出上の重要記号はできるだけ残したが、囃子の打切を意味する「打切」「打」「ウ」間拍子を意味する「ヤ」「ヤア」「ヤヲ」「ヤヲハ」、地拍子を意味する「トリ」「片地」「ヲクリ」などの特殊記号は省略した。

六、「印は原典に固執せず、詞の所(節付のない所)は「、節の所(ゴマ譜のある所)はへを付けて区別した。

七、句点は原則として原本通りにしたが、元来句点は節譜の一種であって(句点は必ずそこで息を一旦切り次を謡えという謡い方の記号)、韻文の切れ目とは必ずしも一致しないから、韻文(節付のある部分)の拍子合わずの所は七五調を基本とする一節を原則として一句と考え、拍子合いの所は八拍子を基準とする一区切を一句とし、これらの区切の所に編者の見識で句読点を付けた。この場合原典に句点のある時はそのままにし、句点のない時は読点を付けて区別した。ま

た詞の所も原本が句点を脱している場合は、これまた編者の見識で読点を付けた。

八、濁点は、原本にある場合、異本を参考にして補った場合、編者の見識で補った場合の三つに分けられるが、清濁いずれか決し難い場合はそのままにした所もあり、また注意すべき所は私註で私の意見を述べた。

九、曲名の下の「」でくくった番号は、未刊謡曲集一の最初の曲を一とし、それからの通し番号である。したがって角淵本番外謡曲からの通し番号は、これに五十二を加えればよいことになる。

十、謡曲の専門的な術語については、『未刊謡曲集』三十一附載の拙稿「謡曲の音楽的研究」を参照して頂きたい。但し右の拙稿には校了後、組版の時に印刷所側に過失があり、二二五頁の初行全部を二二四頁の初行に移行して読んで頂きたい。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

各曲解題

明石（あかし）〔竹中版本〕京都市伏見区讃岐町に戦前より在住の篤志家竹中実氏の新作謡曲の一つ。戦前には1親鸞（これが最も古いらしく昭和十六年八月二十八日竹中実氏発行ガリ版刷）以下制作年代順に2八咫烏3クレオパトラ4雲井雁5蒙古襲来（以上全部ガリ版刷で発行所発行年月日不明）その次は「謡曲日本史」と題する謡物で上巻に(一)日本武尊（ヤマトタケルノミコト）(二)神功皇后(三)藤原鎌足(四)菅原道真(五)児島高徳（ノリ）(六)楠正行(七)上杉謙信(八)織田信長(九)豊臣秀吉(十)片桐且元（以上昭和十七年十一月十五日伏見友楽会本部発行ガリ版刷）下巻に(十一)大石良雄(十二)松平定信(十三)近藤重蔵(十四)高山彦九郎(十五)平野国臣（オミ）(十六)三條実美（サネトミ）(十七)岩倉具視（トモミ）(十八)西郷隆盛(十九)東郷平八郎(二十)乃木希典（マレスケ）（以上昭和十八年一月十五日同じく友楽会本部発行ガリ版刷）があるが、これらは全部短い謡物である。その次に6水漬屍（ミヅクカバネ）（発行所発行年月日不明ガリ版刷）があり、これまでが軍国主義時代の戦前の作品。戦後の作品は「竹中実謡曲集」と題する仮綴の冊子にまとめられ、7法隆寺（昭和二十五年九月一日）8本願寺（昭和二十六年二月一日）9知恩院（昭和二十六年

二月十五日)10若紫(昭和二十六年九月十五日)11明石(昭和二十六年十月一日)12北野(昭和二十七年二月一日)13重衡(昭和二十七年四月一日)14桐壺(昭和二十七年九月一日)15祇園(昭和二十八年三月一日)16銀閣寺(昭和二十八年九月一日)17原爆(昭和三十年五月一日)18御香宮(昭和三十一年四月一日)19清盛(昭和三十一年四月十五日)20爾霊山(昭和三十二年三月一日)21河童(昭和三十二年九月十五日)22飛龍(昭和三十三年 四月一日)23椎葉(昭和三十三年九月十五日)24人魚(昭和三十四年四月十五日)25白虎隊(昭和三十四年九月十五日)26川中島(昭和三十八年九月十五日)となって居り、戦前戦後を通じて完曲二十六番、謡物二十曲の多きに達する。(右の7から26までは18の御香宮を除き全部伏見友楽会発行のガリ版または木版刷で、御香宮は昭和三十一年四月一日の初版が御香宮神社発行、昭和五十三十月一日の再版が御香宮神能会発行となって居り、右のすべての曲は竹中実氏の御令息竹中宏氏のお手許にあり、同氏の御厚意で、西野春雄氏がコッピーされたものを見せて頂いた。両氏に厚く御礼申上げる)

作者竹中実氏は、宏氏の御教示によれば、明治三十五年(一九〇二)京都生れ、昭和五十年(一九七五)病歿。京都薬学専門学校卒の薬剤師で、終戦までは製薬会社・保健

所・病院等に勤務し、戦後は京都市伏見区讃岐町一六八番地の自宅で薬局を開業。身内に謡曲愛好者が居てその影響で謡曲を始め、大阪勤務中に観世流の手塚亮太郎師に師事。したがって同氏作の謡曲はすべて観世流節付。伏見友楽会は竹中氏を中心とする謡曲愛好者の集りで、戦前から毎月の例会を欠かさなかったが、昭和四十五年に病床に臥すようになって自然に疎遠になった由である。

竹中氏の新作はそれぞれの曲の解題で示すように新作素謡発表会が行われ、京阪地方では評判になり、マスコミでも取り上げられた。この明石も昭和二十六年十一月四日、京都市伏見区西大手町大光寺で、この試演発表素謡仕舞会が行われた。玄人筋の協力が得られないので、能としての上演には至らなかったが、板本の前付には「此曲凡テ閑カニ淋シク謡フベシ」と註して、「季節十一月。曲柄三番目葛物。所兵庫県明石。稽古順二級。ワキ僧—角帽子、着附無地熨斗目、水衣、白大口、緞子腰帯、扇、珠数。ワキツレ従僧二人—角帽子、着附無地熨斗目、縷水衣、白大口、緞子腰帯、扇、珠数。前シテ里女—面若女、鬘、鬘帯、着附摺箔、色入唐織着流。後シテ明石—面若女、鬘、鬘帯、着附摺箔、紫長絹、緋大

口、腰帯、扇」と観世流大成版に準じる記し方で、能としても上演出来るよう、装束附までととのっている。典拠は勿論『源氏物語』であり、竹中氏は源氏物語が好きだったらしく、他にも源氏物が散見する。

明石西行（あかしさいぎやう）家蔵柴田本所収。柴田本は岐阜柴田熊之助所蔵（「現在七面」の裏表紙に「濃州岐阜釜石町〈釜石難読〉柴田熊之助所持」と墨書あり）観世流節付仮綴本五十三冊。寛政頃の近世後期寫本で、本文は樋口本に近いが、福王流とは断定し難い。現在七面身延トモ（ほぼ同文のもの二冊あり。一冊には「身延トモ」なし。現行曲系）・明石西行・鷺前・兼実（ほぼ同文のもの二冊あり）・龍神白楽・高安小町・岡崎・禅師曽我・東海寺・鄽県山枕士童共（元禄二年版三百番外百番本 枕士童系）・三笑・住吉詣・恋松原・座論（梶原座論）・鳴不動・橋立（謡曲叢書所収天橋立系）・小倉御幸・猩々前・室君・吉野忠信空腹共・藤（現行観世流系）・満中・絵馬・吉野静前・雪頼朝・橋弁慶前笛之巻・不断桜・悪源太・飛鳥川（未刊謡曲集一所収系）・馬乞佐々木・鱗形・翁（初日の式より四日の式まであり）・箱崎物狂・合浦（現行観世流系）・長柄（未刊謡曲集二所収系）・寄合猩々（未刊謡曲集二十二所収大瓶猩々系）・

花盗人（以上完曲）・（以下謡物）源氏供養語（同名曲の中入のワキ語）・山本小町（同名曲のクセ）・粉川寺（同名曲のサシクセ）・玉嶋（同名曲のクセ）・那須母衣トモ（同名曲二種共に共通のサシクセ）・初紅葉（完曲未詳。クセ）・さねかた（同名曲のサシクセ）・藤（観世流同名完曲のサシクセ）・薄花桜（完曲未詳。クセ）・鎌倉八景（『蘭曲大成久世舞』所収同名謡物に同じ。サシクセ。完曲未詳）・相模八景（同上）・雑一字題（謡物一字題と同工異文。完曲未詳）・近江八景（蘭曲同名曲に同じ。サシクセ。同名完曲はこのサシクセを本にして作られたか）・（以下は「久世舞」と題して一冊にまとめられている）一字題（同名蘭曲に同じ。完曲小倉御幸のサシクセ）・雪之翁（同名完曲のサシクセ。蘭曲では四季とも呼ばれる）・山本小町（同名曲のサシクセ）・虎送（同名曲のサシクセ）・義平（このクセは蘭曲の「兵揃（つはものそろへ）」に同じ。完曲悪源太のシテ詞・上歌・クセ）の、完曲三十九番三十九冊・謡物十八番十四冊、計五十七番五十三冊からなっている。明石西行は名寄類には殆ど見えず、元禄十二年（一六九九）以後成立の家蔵『謡千番外題』に見えるのみであるから、あまり流布しなかった曲と考えられ、室町期の作かもしれない「人麿」（未刊謡曲集十三所収。別名人麿西行）、同じく室町期の作かもしれない同文の所も散見す

る類曲「人丸西行」（古典文庫五七『番外謡曲角淵本』続所収）等と同材異曲。右三曲はいずれも『三国伝記』巻六の第二十一話の影響作で、人丸と西行との歌問答も三国伝記にそのまま見えている。しかし本曲は「人丸」や「人丸西行」と比べて伝本も名寄類の所見も少いから、右の二曲よりも後作で、近世中期頃の成立かと思われる。

赤目滝（あかめのたき）昭和九年（一九三四）七月十日、地元三重県名張町（現名張市）本町四一番地岡村書店発売、名張町本町三一四番地中村権編輯、名張町本町三一四番地名張凌雲社発行の金剛流版本と、昭和九年二月十日、三重県津市中新町一九九三番地浅野儀史（ぎし）作曲編纂、同所玄玄荘（浅野儀史の寓居）発行の喜多流版本との二種がある。喜多流本は漢学者浅野儀史（松洞（しょうとう）と号し、筆者の三重県立津中学校時代の漢文と書道との恩師。『三重先賢伝』『続三重先賢伝』等の労作あり）の編著で、その奥に「此一巻は伊賀名張藩儒鎌田梁洲翁文久元年辛酉（一八六一）三月十三日の著作に係る。子孫衰へこの書また湮滅に帰せんことを恐れ、先輩喜多流教授（素人だが弟子を取ることを許された半玄人のような立場の人）中尾喜楽斎（津市在住の喜多流半玄人）に

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb